

## 出張報告

### 「香港亞洲研究學會」

2015年3月14日に「香港亞洲研究學會」THE ASIAN STUDIES ASSOCIATION OF HONG KONG（香港アジア研究学会）で発表するため、国際交流旅費補助を得て、香港を訪れた。

今回は同3月13日に香港中文大学において、Yale大学のWilliam Kelly教授の講演もあったため、併せて参加した。

まず3月13日の講演会から報告を記す。この講演会はComparative Asian Research Network (CARN) Monthly Lecture Series on Issues and Research in the Asian Regionという企画で、香港中文大学日本学科の主催、人類学科の共催で行われた。講演者のWilliam Kelly氏は、現在Yale大学の人類学部長を務めており、人類学者として、また日本学者としてきわめて高名な研究者である。今回の講演のタイトルは、What Does the Anthropology of Japan Tell Us About Japan and About Anthropology? であり、日本に関する人類学的研究の歴史を振り返りながら、人類学が日本について何を語ってきたのか、また人類学的視点の限界、問題点はどこにあるのかを論じていた。とくに、アメリカが高度経済成長期の日本に注目していた時期になされた、日本の会社文化、サラリーマン文化についての人類学的研究についての考察は、きわめて興味深いものであった。

講演会終了後は、Kelly氏と直接懇談をする機会を得た。Kelly氏は、もともと山形県の庄内地方のフィールドワークを長年手がけており、筆者がその地域の出身であったことから、フィールドとしての庄内地方について

大いに語り合うことができた。

今回Kelly氏と知己を得たことで、2015年度の国際研究フォーラムに招くこともできた。この点でも有意義な出張であったと考える。

翌日参加した香港アジア研究学会は、人類学、現代文化、教育、環境、文学、言語、政治、宗教、社会学など、さまざまな視点からアジアの問題を考える学会である。2006年から毎年香港の大学、研究機関で開催され、本年は珠海学院で「香港、アジアの現代的多元性」をテーマに第10回大会が開かれた。



筆者は Religion in Modern Japan というテーマで、北海道大学の櫻井義秀氏とのセッ

ションであった。発表のタイトルは Japanese Deities in Popular Culture で、まず現代日本における神道ブームについて、伊勢の式年遷宮や古事記 1300 年のイベント、パワースポットブーム、婚活ブームなどの点から概観し、その上でとくにポップカルチャーが神道をどう表象し、何に注目しているのか、さらにはその世界で神々はどう描かれているのかを論じた。以下に発表のスライドの一部を掲げる。



櫻井氏の発表テーマは Pet Funeral Services in Japan: Change of Intimacy and Religiosity で、日本におけるペット供養について、社会変化との関係から論じた。

両者の発表のあと、フロアを交えての討議となり、ポップカルチャーにおける神々の描き方については、神道界からの反発はないのか、といった質問などが出た。そのほか現代の日本人の宗教性をめぐって、活発な議論が行われた。



このほか、学会では、日本のテレビゲームの台湾へのローカライズを取り上げた発表や、靖国神社の遊就館と韓国の戦争記念館の展示の比較などの発表を聴講し、研究上、さまざまな有益な示唆をえることができた。

(平藤喜久子)